授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1820 号

Clinicopathological features of alpha-fetoprotein producing early gastric cancer with enteroblastic differentiation

（AFP 産生胎児消化管上皮類似早期胃癌の臨床病理学的特徴）

松本　紘平（まつもと　こうへい）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、AFP 産生胃癌の一組織亜型である胎児消化管上皮類似癌の早期症例について、通常型早期胃癌（中～高分化型腺癌）と比較することで、その臨床病理学的特徴を検討している。その結果、胎児消化管上皮類似胃癌はリンパ管・静脈浸潤率、粘膜下層浸潤率、非治癒切除率が有意に高いことが明らかとなった。病理組織学的には、腫瘍表層は通常型癌に被覆され、胎児消化管上皮類似癌成分は粘膜深部から粘膜下層にのみ存在するため、術前生検で胎児消化管上皮類似胃癌と診断することが困難であった可能性が示唆された。また、間質反応に乏しい浸潤形態を示すことから、内視鏡像の変化が乏しく、内視鏡的に粘膜下層深部浸潤を疑うことが困難である可能性も示された。AFP 産生胃癌には肝様腺癌、卵黄嚢腫瘍、胎児消化管上皮類似癌の 3 種の組織型が存在し、これらの組織型と通常型癌が混在することが多いと言われている。しかし、本検討では粘膜層に通常型癌と胎児消化管上皮類似癌成分を認め、その他の組織型は認められなかったことから、胎児消化管上皮類似癌は通常型癌より発生し、深部浸潤するとともにその他の組織型の形質を獲得する可能性が示唆され、胎児消化管上皮類似早期胃癌が組織混在型 AFP 産生胃癌の初期像である可能性が示唆された。

以上より、本論文は胎児消化管上皮類似胃癌は早期であっても高い悪性度を有し、術前の質的診断および深達度診断が困難であることを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。